

支援者スキルアップ学習会開催事業

特定非営利活動法人と一たす

〒503-2321 安八郡神戸町大字末守 664

助成事業の概要

【実地目的】 自閉症、発達障害児者がひとクラスの2～3人に増えてきている今、発達障害に対する支援について教育現場や事業所などで、一人ひとりの障害特性に合わせた支援が求められている。障害者自立支援法の中に障害者が地域で安心して暮らせる社会の実現を目指すとともに、障がい児、者が地域で地域生活できる暮らしやすい地域・社会づくりの実現を目標とし、当団体の支援技術のスキルアップ学習を行う。

【時期】 年6回

【内容】 障害がある人達の自立支援や障害がある人達が地域で地域生活できるよう、そもそも支援を行うということはどういうことなのか、何を大切に行うものなのか、アセスメント技術・具体的な支援技術の研修、どんな支援があり、どのように利用されているのか法や制度の要点も含め学習会を行い、リアルタイムでヘルパーが抱えている不安や情報交換も含めた支援技術の向上のため学習会を行う。

事業の成果

目的達成度、得られた成果や課題、参加者の感想・私たちが住んでいる地域に、どれだけの支援施設があり事業所として何ができて何ができないのかを考える機会がもてた。私たちのような外出支援をする施設の他にも障害をもった人たちが生活する場、働く場があることを知ることができた。余暇や生活場面を支える支援者として働く、暮ら

すという視点を持つことができたことは、これから子どもたちを支援していく上で視野が広がり、少し先を見据えて違った見方ができるようになった。自分たちが支えている部分はほんの点なんだということが分かった。

ワークショップでは、私たちが普段使うものを通じて、障害者の方々のことを支援者だけでなく、障害を持った人を知らない人たちにどのように啓発していくかを学んだ。課題分析のワークショップでは、障害者に限らず人にどう伝えたと伝わるかを学ぶことができた。技術や技法が大切なのではなく、本人に本当に必要なことを考えることの大切さを学んだ。全体像でその子を見るのではなく、事実（行動）を見ることにより、本人を理解・評価・知ることがアセスメント。本人の要望や家族の要望を聞きながら、ニーズを見出していくことの大切さを学んだ。今、何ができていて、何ができていないかを私たちが理解するには一つの行動を細かく刻むことで、どこができていなくて、どこを支えて、どこは一人でできるのかを見分けることができる。今後は、アセスメントした結果に基づきどう支援計画にいかしていくのか、学んでいきたいと思う。

成果の広報、公表

事業成果をどのように広報、公表されたか等・職員の参加を促し、研修後は事業所内のパート・アルバイトの研修で振り返りの研修を行った。学んだことを他のスタッフに伝えることにより、自分が何が分かっている、何が分かっているかを

再確認できた。

■ 今後の展開

助成事業の成果や課題を踏まえた今後の展開等
・技術や技法が大切なのではなく、本人に本当に必要なことを考えることの大切さを学んだ。知り得たことを元に、どのように目の前の利用者さんに活かし、どのように計画していくかが課題となる。ついつい問題を解決しようと困った行動への対処法を考えてしまうが、基本に立ち返り必要なこと、大切なことを丁寧に行っていきたい。